

山代吉米は過般の飛屈、炭礦爭議の頭初より頼りに評議会
 系の二三の者と通謀して自らの勢力を我々の常磐地方聯合会の地
 盤に扶廻せんとした。此は丹後への行為は明かに利己的見地より出た
 ものである。茲に組合の眞意として断然とよかざる態度である。
 且身議解決後我が幾多の同志が對炭礦と被勞した隙に來て
 依然外部の極左翼小兒病輩と私に相謀りて稱した「般勞
 働組合」なるものを小野田に組織した。貧弱なる自ら王國を築か
 せんとした。此は明かに我が日本鉱夫組合の嚴格なる統制を棄して
 分裂を策動し以て我が同志と資本階級に貴人となる。階級的
 裏切者の行為以外の何物でもなく、此は山代労働者より一般労働組
 合とは何にも矛盾あり。此は彼等が第一に階級者として資力を
 自ら放棄した確証ではないか。其他の者に至っては徒らに山代労働
 者に迷惑を以て根も葉もない逆宣傳を山代に吹込み、此は山代労働
 者に害はす。吹聴し廻す得るものは高者後徒らに山代組合を擁護し
 ず。是に於て何れ山代と稱せんか。なすもてある。

彼等が山代を空を打つ理論の遊戯に流し理論と云ふものは寧ろ
 聽き入り讀みかいらの粗雑なる理論を以てし、其を以てし、其を以てし、
 つくその内容の空虚たること彼等の流し逆宣傳と此も異なればな
 い。我等は今後我等の運動を進展せしむる上、於て表面理
 論を重んずるかに見えてその實質理論も実行も無いか。其は労働
 運動の寄生虫を我等が統制の下におくことは断して許し得な
 い処である。

三、我が日本鉱夫組合常磐地方聯合会が山代以下 名を
 断すとして除名する理由である。